

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)JR東日本事務所及び駐車施設	階数	地上8F
建設地	埼玉県さいたま市大宮区錦町397番	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	378 人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,080 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2019年8月21日
敷地面積	9,298 m ²	作成者	西村
建築面積	1,449 m ²	確認日	2019年8月26日
延床面積	10,979 m ²	確認者	稲川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 82%
③上記+②以外の 82%
④上記+ 82%

0 46 92 138 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		その他
総合 自然エネルギーの有効活用と省エネルギーを目指した事務所ビルの確立をめざした。		特に、なし
Q1 室内環境 断熱性能が高い外装サッシを使用し、空調方式にはパッケージ方式を採用した。	Q2 サービス性能 居室の適切な広さと収納性を確保し、設備更新のためのスペースおよびロフトの確保に努めた。	Q3 室外環境 (敷地内) 光害防止に努め、地域性への配慮を行った。
LR1 エネルギー パッケージ方式を採用し、搬送動力を軽減した。	LR2 資源・マテリアル 有害物質を排除した材料選定を行った。	LR3 敷地外環境 屋外機を各階設置とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)JR東日本事務所及び駐車施設新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境			0.40		-				3.5
1 音環境		3.4	0.15	-	-				3.4
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	T-2 (YKKシステム521 S-5相当品)	5.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-				
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-				3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.8	0.25	-	-				3.8
3.1 屋光利用		3.6	0.30	-	-				
1 屋光率	屋光率=2.0%	4.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 屋光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-				
1 屋光制御		3.0	1.00	-	-				
3.3 照度	執務室500~750lx	4.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御	人感センサ設置	5.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-				4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	建築基準法を満足し、規制対象外となる建築材料も全面的に採用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		4.0	0.30	-	-				
1 換気量	建築基準法を満足する換気量を確保。	4.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮	居室部30m ³ /h人の外気を取入れている	5.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御	執務室エリアに喫煙室を設置。	5.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-				3.3
1 機能性		3.3	0.40	-	-				3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画	望ましい基準を満たしている。	4.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	執務室天井高さ=2.7m。	4.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	内装設計・外装設計とも防汚性の高い建材を使用している。	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	天井点検口600×600とし、その他でも十分な点検スペースを確保。	4.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管: B、排水管: B、Eは不使用。	4.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		3.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備	無停電電源装置を採用	5.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	ネットワーク用に無停電電源装置を採用	4.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高=3.75m	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.124	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	電線すべてに配管を採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	更新スペース・ルートを確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30	-	-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.74	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.77	3.3	0.50	-	3.3
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			4.2	0.20	-	-	4.2
1.1 節水				4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.4	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	濾過機を設置し、雨水を利用	5.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			OA707、可動間仕切り	4.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			躯体さび止め、サッシ用シーリング、ガラス用シーリング	5.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2=参照値の82%	3.7	0.33	-	3.7
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	2.5
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-	-	-
1	騒音		-	-	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.67	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				1.6	0.33	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	